

平成 30 年度第 1 回理事会議事録

- I. 会議名 : (公社)日本地すべり学会 平成 30 年度第 1 回理事会
 II. 開催日時 : 平成 30 年 5 月 17 日(木) 14 時 30 分～16 時 45 分
 III. 開催場所 : 一橋大学一橋講堂 101 特別会議室
 IV. 出席者 : 理事出席 16 名○, 監事出席 2 名○ その他 2 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	落合 博貴	○	理事	後藤 聡	○	理事	平松 晋也	○
理事	奥山 武彦	×	理事	櫻井 正明	○	理事	松浦 純生	○
理事	榎田 充哉	○	理事	笹原 克夫	×	理事	水野 正樹	×
理事	中里 裕臣	○	理事	新屋 浩明	○	理事	森山 裕二	○
理事	浅野 志穂	○	理事	田近 淳	○	理事	八木 浩司	○
理事	新井場公德	○	理事	綱木 亮介	○	理事	渡部 直喜	○
理事	加藤 猛士	○	理事	中村 真也	×	(理事 16 名 定足数 11 名)		
監事	秋山 一弥	○	監事	白木 克繁	○	(監事 2 名)		
表障委員会	土屋 智	○				事務局	鈴木 英則	

○定足数 11 名(理事の過半数)を満たし、理事会は成立した。

○議事録署名人は、落合会長、秋山監事、白木監事。

<議長あいさつ>

落合会長が開会あいさつを行った。

<前回議事録>

中里専務理事が、(公社)日本地すべり学会平成 29 年度第 4 回理事会の議事録に関し確認を求めた。

審議の結果、誤字訂正(「審議事項 I-1.平成 29 年度事業報告」→「審議事項 I-1.平成 30 年度事業計画」)のうえ、議事録内容は承認された。

議題 I. 審議事項

I-1. 平成 29 年度事業報告

各部長及び各支部長より、資料に基づき、平成 29 年度の事業報告の説明があった。中部支部長より、資料の記載漏れ(5 月に砂防学会と合同で飯山市井出川における災害の調査を行ったこと)が報告された。

<議論>

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-2. 平成 29 年度決算報告及び監査報告

新井場総務部長より、資料に基づき、平成 29 年度決算の説明があった。

<議論>

- ・赤字要因として学会独自研究事業があるとのことだが、長期的な成果の他に、短期的な成果は得られているのか？学会への貢献として、学会誌への投稿などの義務は無いのか？
 - 特に条件は付けていない。日本地すべり学会誌への投稿を計画していると聞いている。
 - ・関西支部幹事会では、支部仮払金の見直しに関連して、本部の繰越金が適正なのか、という意見が出された。また、支部長が理事会に入っていないので、支部と本部との認識にずれがあるのでは無いかという意見が出された。
 - 全体として学会で管理しているのであるから、本質的に変化はない。支部の予算を立てるときに、仮払金を支部の収入であるように考えるから誤解を生むのでは無いか。また、理事として支部長を職名で宛てることは、定款に定めのある理事会の構成を、任意に設置する支部に委任することになり、適当では無い。
 - 支部の一部には、頑張って企画をしても支部にお金が残らないという感じ方がある。
 - そう感じてしまうことは理解できるが、全体としての予算を理事会で立てて執行しているのであるから、支部で黒字にする必要は無く、責任を感じる必要は無い。萎縮すること無く積極的に事業を実施して頂きたい。
 - 支部と理事会との認識の共有はとても大切であり、今後は支部長にも理事会の開催案内、議案書及び議事録を送ることとし、必要があれば同席して貰うことも可能としたい。
- 審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

秋山監事より、資料に基づき、監査報告が説明された。その際、領収書等をきちんと貰っておくように、という注意喚起があった。

I-3. 平成 30 年度通常社員総会の日時・場所・議題

新井場総務部長より、資料に基づき、平成 30 年度の通常社員総会の日時・場所・議題について提案があった。

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-4. 特定費用準備資金の一部取崩

新井場総務部長より、資料に基づき、特定費用準備資金の一部取崩について提案があった。

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-5. 平成 30 年度販売図書の管理・販売について

櫻井出版委員長より、資料に基づき、平成 30 年度の販売図書の管理と販売について提案があった。

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-6. 平成 30 年度学会賞受賞者

土屋表彰委員長より、資料に基づき、学会賞の受賞者について提案があった。

<議論>

・共著者の扱いはどうなるのか

→当学会では伝統的に、個人を表彰している。編集委員会が表彰委員会に推薦するときには、論文賞についてはいくつかの論文を併せて評価することが多く、貢献の最も大きかった個人に絞られる。技術報告賞の場合は一本で評価することが多いが、連絡著者と筆頭著者が異なる場合などは、貢献度などを慎重に判断している。

・他学会では、論文や技術報告の共著者全員を対象としているところもある。

→それは学会ごとの文化の違いでは無いか。

→当学会の表彰細則には、表彰の対象は著者の個人とされており、特定の論文や技術報告そのものが受賞するものではない。

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-7. ベトナム交通科学技術研究所(ITST)との MOU

落合会長より、資料に基づき、ベトナム交通科学技術研究所との MOU 締結について提案があった。現時点では案が届いたところで有り、今後詳細を検討していくという説明があった。

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、本議案は了承された。

I-8. 入退会者状況

鈴木事務局長から、入退会者状況が報告された。

<議論>

審議の結果、賛成 16 反対 0 で、入会申込者全員の入会が了承された。

I-9. その他

特になし。

議題Ⅱ. 報告事項

Ⅱ-1. 会長、副会長、専務理事の職務執行報告

中里専務理事より、資料に基づき、執行役員の職務の執行状況が報告された。

Ⅱ-2. 平成 30 年度学会特別研究員研究計画

中里専務理事より、資料に基づき、特別研究員の研究計画が報告された。

Ⅱ-3. 平成 30 年 4 月中津市耶馬溪町で発生した斜面災害

落合会長より、資料に基づき、災害の緊急調査及び報道発表が報告された。

Ⅱ-4. ICL-JAPAN の設立

落合会長より、資料に基づき、NPO 国際斜面災害研究機構より、ICL-JAPAN の設立の打診が

来ていることが報告された。国際部、ICL 小委員会も把握していないとのことであり、今後内容を確認すると説明があった。

II-5. 平成 32 年度研究発表会開催地

櫻井関東支部長より、資料に基づき、平成 32 年度研究発表会開催地を山梨県とすることが報告された。

<議論>

・9月とのがだが、どの時期を見込んでいるか。

→中旬を見込んでいるが、9月に開催される土木学会の日程との関係及び会場確保の観点から、検討しているところである。

II-6. 代議員の変更(団体会員)

櫻井関東支部長より、資料に基づき、団体会員の代表者変更に伴う代議員の変更が報告された。

II-7. その他

八木理事より、栗原市が主催して、岩手・宮城内陸地震の10周年記念シンポジウムが7月7、8日に開催されること及び東北支部が協賛することが報告された。

落合会長より、任期を総括して挨拶があった。災害対応、中長期計画及び海外対応が重要であると認識して運営してきたと説明し、学会調査団等の災害対応により活動が活発化したこと、会員数対策WGの活動もあり会員数が横ばいになってきていること、試行している解説委員による情報発信等のアウトリーチ活動が徐々に軌道に乗っていること、WLFへの協力やベトナムとの交流など国際化のための取り組みを続けているが、科学技術的なプレゼンスが低下しているのでさらなる努力が必要であることが述べられた。土屋表彰委員長から、取材対応などにより社会的な認知度が向上しており評価できるという意見が出された。後藤理事から、研究機関登録は大変有意義であるが、その見通しはどうかという質問が出され、落合会長は、6月までに申請を目指したいと述べた。

以上

議 長 落合 博貴 (印)

議事録署名人 秋山 一弥 (印)

議事録署名人 白木 克繁 (印)